

☆講演題目 国際原子力問題の展望

☆講演概要

日本にとって原子力問題の特別の重要性を外交面から展望する。日本政府は、原発手段（核物質、ウラン濃縮、再処理等）の海外からの確保のため関係国と原子力協定を結ぶと共に、平和利用を確保するため IAEA と保障措置協定（査察）を結ぶ。本講演では、1. 講師が実際に扱った日米、IAEA など協定・交渉の経験談、2. ウラン資源確保の問題、3. オバマ大統領の核戦略と対中考慮、4. インドへの米国の原子力協力、二重基準の批判はあれど米としては対中戦略的考慮、その結果、日本製部品使用の関係で、日印原子力協定まで必要になったことなどを紹介したい。

☆講師 肩書き 氏名：

元外務省・大使、現千葉経済大学非常勤講師（国際関係論）

中村 義博（なかむら よしひろ）氏

☆講師略歴：

1966年京大法中退し外務省入省。外務省研修で米国ダートマス大学留学（経済学部卒業）。外務省官房査察室長、欧亜局大洋州課長、在ロス首席領事、在ユーゴ公使、国際労働財団常務理事、在ザンビア大使（マラウィ兼任）、財務省通関情報処理センター監事、在ウルグアイ大使、上記財団理事（2回目）、千葉経大。なお、外務省時代に、原子力問題（2年）、資源・エネルギー問題（2年）、中東産油国問題（2年）、軍縮問題（2年）など担当。著書に「ユーゴの民族対立」（サイマル出版）、「ODAによるNGO支援」（連合）など

☆顔写真

